

一〇一五年七月二五日

かなかなのこえに暮れゆく一山家

一〇一五年七月二十四日

常滑の甕も干さるる梅筵  
大空に万華散らしや揚花火  
藍染のゆかたは祖母の形見る

一〇一五年七月二三日

観音の裳裾引つ張る蜘蛛の糸

一〇一五年七月二二日

貝殻を耳に当つれば波の声  
白樺の梢隠れに避暑ホテル  
祈れとぞ木椅子置かれし樹下涼し

一〇一五年七月二一日

二タ二こと語りかけもし墓洗ふ

一〇一五年七月二〇日

畳目の頬にくつきり昼寝ざめ

一〇一五年七月十九日

神護寺の仁王は小柄門涼し

明日香

千鶴子

康子

む　　澄　　山　　康　　千　　山　　む　　澄  
　　山　　椒　　子　　子　　鶴　　椒　　ベ　　子